

環境衛生課からの お知らせ

環境衛生課（吉備庁舎）
清水行政局 建設環境室

〈ごみ分別すれば資源〉

令和4年度（2022年度） 町営二川小水力発電所発電実績

令和4年度（2022年度）の有田川町営二川小水力発電所の発電実績を報告します。

●年間発電量／約108万キロワット時

●二酸化炭素削減量／約380トン（原油換算で約278キロリットル）

●売電額／約4046万円

二川ダムでは下流域の環境維持のため毎秒約700リットルの放流が常に行われています。有田川町営二川小水力発電所は、この環境維持放流水の水流エネルギーを利用し、発電しています。この発電所の収益は循環型社会の構築と自然エネルギーの利用推進のために役立てられています。環境にも町財政にもエコな発電所です。

家庭ごみ総合案内

平成31年（2019年）4月、

家庭ごみ総合案内を発行し、町内の全家庭に配布しています。本冊子では、ごみの処分の方法やごみの捨て方を詳しく説明しています。ごみ分別早見表が巻末にあり、捨て方に迷うごみの出し方が分かるようになっていきます。町ホームページにも掲載していますので、参考にしてください。※町外からの転入世帯にも配布しています。

冊子が必要な方は、有田川町役場各庁舎でお配りします。

配布場所

- 環境衛生課（吉備庁舎）
- やすらぎ福祉課（金屋庁舎）
- 清水行政局建設環境室



川を大切に

毎年、夏前になると「魚が死んで浮いている」などの通報を受けます。夏場の猛暑で水温が高くなり酸欠が原因になることもあります。多くは農薬散布の方法や残農薬をそのま

ま川に流してしまうなどの不適切な廃棄処分によるものが原因と推測されます。また、農薬以外にも事業所（工場や飲食店）からの廃油などが流出する事故も数件あります。魚が死ぬと、付近一帯に異臭を放ち大変迷惑であり、それ以上に生態系を崩す大きな問題になります。川への残農薬などの放流は絶対にしないでください。

家庭から出る燃えるごみの収集量

令和5年（2023年）3月／約306トン
前月から約53トンの増加

有田川町の家庭から出る燃えるごみや燃えないごみは環境センターで処理されており、その運営費の一部を分担金として支払っています。分担金はごみ搬入量と人口に基づいて計算されます。生ごみの水切りやコンポスト容器の利用など、ごみ減量によって環境にも町財政にもエコな暮らしを目指しましょう。